

Devotion Guide/ユースマナ Youth Manna マルコ1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。	2022/12/5(月) 黙示録11章 ●3節を読もう。ここに登場する「証人」は何人で、何をすると書いてあるかな？ () 人 () ●11節を読もう。二人の証人は殉教するけど(7v)、3日半後に神様によって復活する。ここからどんなことを感じるかな？ () ●クリスマスシーズンだね。誰かと二人で祈る祈りには力があるよ。きみがイエス様を知って欲しい人を書いて祈ろう。 ()	2022/12/6(火) 黙示録12章 12章には、イスラエルに戦いを挑むサタンが書かれているよ。 【用語説明】「一人の女」：イスラエル(ユダヤ人)。3節「大きな赤い竜」：サタン。「7つの頭と十本の角を持ち、その頭に7つの王冠」：ユダヤ民族を滅亡させるために世界に登場する世界帝国や王たちの姿。5節「男の子」：イエス・キリスト。イエス様は人として生まれ、地上で成すべきことを全てやり終えて天に引き上げられました。 サタンはイエス様に対する攻撃が失敗したので、次にユダヤ民族に攻撃を向けるようになる。なぜならユダヤ民族にはイエス様の再臨に関する大切な役割があるからだ。今までの歴史でも、サタンはイスラエルを亡き者にしようと攻撃してきたけれど、終わりの時には、いよいよ再臨を妨害するために容赦なくイスラエルに向かって進んでいく(13-18)。 ●今も人々を惑わすサタン(9)に対して私たちはどうすべきだろうか？エペソ6:10-18を読んで、祈って出ていこう！	2022/12/7(水) 黙示録13章 ここには、12章に登場した赤い竜の協力者である二匹の獣が登場する。 ・海からの獣(1-10) 地上を支配する者の圧倒的な力を象徴しており、この獣はサタンに権限を与えられ、神を冒瀆し、キリスト者を迫害し、全地に支配権を振るう。しかし、彼らの横暴さは「四十二ヶ月間」(5)であり、限りがある。「地に住む」(8)は世の価値観に生きる者のことを言いそのような者たちは獣を拝むようになる。 ・地からの獣(11-18) 次に、地から上ってきた別の獣は海の獣の像を作り、人々に拝ませている。そして拝まないものを皆殺すようにした。「六百六十六」(18)はさまざまな説があるが、支配権の不完全さを表すとされている。 この箇所では、ダニエルの時代と同じことが起こっており、ダニエルはそうようにその時を過ごしたか思い起こさせる。ダニエルはいつも通り神に祈り、感謝して生きた。
2022/12/8(木) 黙示録14章 今日の箇所を読んでみてどうだろうか？私は黙示録の理解の難しさを感じずにはいられない。 13節。「主にあって死ぬ死者は幸いである。」私たちはこれを知ってるからこそ神様に聞き従っているのではないか。世の中の不条理を見てそれが楽に見えたり、楽しく見えたりすることはたくさんある。キリスト者として歩む時迫害さえありえる。ある意味この世だけが全てなら楽で良いのかも知れない。しかし圧倒的に短いこの世を生きるより、永遠の神とともに歩む生活が良いのは明確である。 選び取るう！！ 難しさの中にいるなら祈ろう！！	2022/12/9(金) 黙示録15章 ▶15章は14章の続きで、七つのラッパによるわざわいのしめくくりが書かれている。激しく迫害を受けた信仰者が解放されて、天で勝利の歌を歌っている(3,4)。 ▶3-4節の歌は出エジプト15:1-18をモチーフにしている。出エジプトの歌は、神様の導きにより、海の真ん中を歩いてエジプトを脱出した民が、苦しみから解放されて主の救いを賛美している場面である。 ▶一方、黙示録では単にモーセの歌ではなく【モーセの歌と子羊の歌】と書かれている。イエスの十字架と復活の罪に対する勝利に重ねて、キリスト者の勝利を歌っているからだ。 ▶神様の御業は、昔も今もこれからも変わることがない。次の御言葉を思い巡らそう。『草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神ことばは永遠に立つ。』イザヤ40:8	2022/12/10(土) 黙示録16:1-11 今日の箇所は読んでいて痛々しい内容が続いているね。こんなにも辛い、こわいと感じるようなさばきをなぜ神様はされるのか…。それは途中でも記されているように神様が本当に「正しい」方で「真実」な方だからなんだ。だから罪であるものをあいまいにはしないし、私たちも神様を正しく恐れてへりくだる必要があるね。それと同時に神様の心を求めて、宣教や救いのために訴える祈りを神様は絶対に聞いていてくださる。神様の真理がみんなのいるところに、この社会に流れていくように祈ろう！	2022/12/11(日) マタイ1:1-17 「イエス・キリストの系図」はアブラハムに始まり、ダビデへと続き、ヨセフで終わる。 系図は神様の約束が成就されたものであると同時に、兄弟を騙した人、姦淫や殺人を犯した人、偶像に心を寄せた人、異邦人など、様々な人の名前があり、罪ある人々の系図であるとも言える。 しかし、そこからまことの王であるイエス様がお生まれになり、神様は罪から祝福へと変えてくださった。 私たちの人生にも、イエス様がきてくださったことで、罪から祝福の歩みへと移された。第三アドベントの今日、自分に訪れたその素晴らしい福音を感謝し、祈りをささげよう。